

15 . 太陽、月、そして星たち (モロ - イソラン)  
モロの人びとは、世界のはじめの頃、地上は、怒りと、気まぐれな神様が、支配して、彼の統治範囲を高い空から監視していたと信じています。彼は巨大な火の玉となって現れ、その燃える熱い光線は地上に降り注ぎました。そして耐えられないような熱を作り出して、人びとに目を保護したり、体を覆わせたりすることになりました。この神様は「太陽」と呼ばれ、時々、彼の怒りは強くて、彼の熱線は地上を焦がしました。不幸は人々は、太陽の焦がす怒りから猶予もなく、1日24時間彼の激怒による苦しみを味わわなければなりませんでした。

遠い宇宙の冷たい暗闇の中に、美しい女神が、大きな、丸くて白い、まだらの玉の姿で現れました。彼女の名前は「月」で、彼女の統治範囲は、真っ暗闇と凍えるほど寒い所でした。ある日、好奇心の強い月は、地球に近づいて歩き、赤々と燃える太陽を見ました。彼の暑い統治範囲は完全に彼女のものと正反対でした。

太陽と月がついに会った時、彼らは即座にお互い恋に落ち、結婚する決断をして、太陽の統治範囲である地上に住むことにしました。

最初は、彼らの結婚は完全なもので、バランスの取れた結婚でした。いつでも、太陽が大変怒った時、彼の暑い激怒を、地上の人々に雨を降らせました。彼の妻月は、彼女の冷たい魅力を使って、彼の気分をなめらかにしたのです。

ついに太陽と月は、何千もの子どもたちを持ち、彼らは、愛情をこめて「星たち」と呼ばれました。長い年月、太陽と月と星たちは、彼ら自身と、地上と、そしてそれ以外の宇宙と、完全に調和が取れて、生活していました。すべて、世界とうまくいっていたのです。

しかし、多くの結婚と同様に、天国でも、その満ちはいつもスムーズというわけではありませんでした。ある日、太陽は大変落ち着かない気持ちになって、彼の統治範囲にある新しい、まだ発見していない地域を探検したくなりました。

彼は妻の月に、彼の長い、疲れる旅から帰ってきた時、ガビ (タロ芋) の葉を調理して、大きな容器にいっぱいにするように、告げました。彼は、特にその容器がおいしい葉で完全にいっぱいになるように、半分でもなく、四分の三でもなく、百パーセントいっぱいになるように、強調しまし

た。太陽は、惑星地球の周りの旅にでかけました。

その間に、月は、象の耳と言われる、ガビの葉を何百も集め始めました。しかし、彼女が大きな容器で調理を始めると、暗い色になるだけでなく、最初の四分の一くらいに縮まってしまいました。そして、それらは調理すればするほど、ますます縮んでゆくののです。これらの葉でその容器を満たすことはほとんど不可能に思えました。

しかし、月は、もし彼女が夫の指示に従って満たさなければ、彼は、彼女のこと、大変怒るだろう、ということを知っていました。

そこで、月は急いで、もっと大きなガビの葉を集めて、調理を続けました。しかし、結果はいつも同じです。彼女がそれらを調理すればするほど、それらは縮まるのです。彼女は何百もの葉を、泡立つ容器に入れましたが、いくら彼女ががんばってみても、彼女には容器の縁まで満たすことはできませんでした。

長い旅のあと、着かれきった太陽がついに帰ってきた時、彼は容器にいっぱいの出来立てのガビの葉の料理を食べるのを楽しみにしていました。

夫が到着しても、月はまだガビの葉をもっと容器に満たそうと、努力していました。しかし、大きな葉を供給するのに疲れ、容器はまだいっぱいにはなっていませんでした。

太陽が沸騰している容器を見た時、彼はがっかりし、彼の妻が彼の指示通りにきっちりに行わなかったことに怒りました。容器は四分の三だけがガビの葉に満たされているだけだったからです。月は、縮む葉の問題を説明しようとしたのですが、彼女の夫は、その理由を聞こうとはしませんでした。彼の激しい気分の噴出のかわりに、彼は焼け付くように、燃えた熱線をおびえる月に当てるように命じました。月の、沈静させるような影響によっても、彼の燃えるような怒りをなだめることはできませんでした。

太陽の激しい怒りは、何日も続きました。その間、地は、また我慢できないくらいの暑さになりました。

月は、彼女の夫を心から愛していましたが、彼女は、彼女と子どもたちのために危険であるので、太陽とはもうこれ以上生活できないと、結論を出しました。そこで、彼らは特別な取り決めをしました。彼らは分かれて、別居生活をします。半日は、激しい太陽が地の上の空を歩き回ることを許

## フィリピンの神話と伝説

されます。しかし、一日の残りの半分は、涼しいつきと彼らの子どもたちが空を歩き回るのです。

これが、どうして太陽が出てきて、昼間、私たちに明るい、暑い日光を与えているか、という理由です。そして、太陽が仕事を終えて、夜の眠りの準備をすると、月と星たちは、彼らの暗さにあわせて、私たちに涼しい夜を与えてくれるのです。これが完全な取り決めであり、地上で特別な暑い日にも、人びとは、常に、夜には涼しい暗闇が地上にやってくる、と知っているのです。

太陽の神様と月の女神様は、この特別な日から彼らの特別な取り決めを守り、それから、共に見ることはありません。太陽が密かにコソコソと、月が遠くから彼を見ているのを知らないで、月の料理容器から何かサビを食べる時を除いては。私たちはこの出来事を、月食と呼びます。